

保育者養成校における表現教育の取り組み（2）

An Approach to Expression Education in Early Childhood Teachers Training School (2)

多保田 治 江*

要旨

専門的な学びを始める前段階に学生が受けている音楽教育や音楽観を調べるために質問紙調査を行った。その結果、小学校・中学校・高等学校ともに歌唱表現が中心の音楽教育を受けてきたことや学生の80%が歌うことが好きであることが分かった。しかし、保育者として必要な弾き歌いや伴奏を伴わないで歌う経験は少なかった。また、オリジナルの伴奏に拘らず、各自のレベルに合わせ、コードで自由に子どもの歌の伴奏をアレンジできる能力を身につけられる伴奏法指導の開発が必要であることが分かった。

キーワード：保育者養成校／歌唱表現／伴奏法指導の開発

I. はじめに

「幼稚園教育要領」¹⁾、「保育所保育指針」²⁾が2008年に改訂された。今回の改訂において領域「表現」では、子どものかかわりに目を向け、子どもたちがお互いに影響しあう環境を構成することと子どもの表現する過程を受け止め、保育者が子どもの表現活動を支えることの重要性が示された。子どもの表現を支える環境として物的環境を整えることも大切であるが、保育者のかかわり方が重要である。子どもの様々な表現に対して子どもの視点に立ち、柔軟に対応できるような保育者を育成することが保育者養成校の表現教育担当者の使命（ミッション）であると筆者は考えている。

本稿では、保育者としての専門的な学びを始める前段階で学生が受けている音楽教育や音楽観について調査・分析を行い、その傾向を知ることによって、「どのような学びを中心に音楽表現関係の授業を展開すべきか」授業改善のための具体的な示唆を得ることが今回の研究目的である。

II. 調査対象と方法

2010年前期授業において音楽表現関係の授業を履修している幼児児童教育学科学生149名に質問紙調査を実施した。内訳は次の通りである。

学科目名	学年	人数
「子どもと表現Ⅰ（音楽表現）」	1年生	68名
	3年生	3名
「音楽科演習」	2年生	40名
	3年生	1名
	4年生	10名
「音楽科教育法」	3年生	27名

III. 調査結果と分析

Q1 小学校・中学校・高等学校において受けた音楽教育についてどの分野が中心だったと思いますか。（複数回答をしてもよい）

* TABOTA, Harue
北陸学院大学 人間総合学部 幼児児童教育学科
音楽科・演奏の基礎・子どもと表現

小学校

表1-1

歌唱表現					
	1年生	2年生	3年生	4年生	計
低学年	66 97%	35 86%	25 81%	9 90%	135 91%
中学年	57 84%	25 63%	23 74%	9 90%	114 77%
高学年	59 87%	29 73%	21 68%	8 80%	117 79%

表1-2

器楽表現					
	1年生	2年生	3年生	4年生	計
低学年	36 53%	18 45%	15 48%	6 60%	75 50%
中学年	55 81%	32 80%	24 77%	6 60%	117 79%
高学年	52 76%	29 73%	19 61%	8 80%	108 72%

表1-3

創作					
	1年生	2年生	3年生	4年生	計
低学年	2 3%	1 3%	1 3%	0 0%	4 3%
中学年	2 3%	4 10%	7 23%	0 0%	13 9%
高学年	13 19%	8 20%	6 19%	2 20%	29 19%

表1-4

鑑賞					
	1年生	2年生	3年生	4年生	計
低学年	10 15%	8 20%	8 26%	1 10%	27 18%
中学年	26 38%	8 20%	8 26%	2 20%	44 30%
高学年	47 69%	17 43%	12 39%	6 60%	82 55%

表1-5

音楽理論					
	1年生	2年生	3年生	4年生	計
低学年	2 3%	1 3%	1 3%	0 0%	4 3%
中学年	5 7%	5 13%	5 16%	1 10%	16 11%
高学年	11 16%	12 30%	10 32%	3 30%	36 24%

上段・・・人数
下段・・・回答率

小学校学習指導要領³⁾では、学年の目標及び内容を〔第1学年及び第2学年〕(低学年)、〔第3学年及び第4学年〕(中学年)、〔第5学年及び第6学年〕(高学年)のように2学年ずつまとめて示されているのでそのグループ分けに準じて回答を得るようにした。調査の結果、小学校では歌唱表現を中心に授業を受けたと答えた学生が1位で総計366名(82%)、次いで器楽表現総計300名(67%)、3位鑑賞総計153名(34%)の順であった。

中学校

表2-1

歌唱表現					
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	計
人数	56	35	26	8	125
回答率	82%	88%	84%	80%	84%

表2-2

器楽表現					
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	計
人数	47	16	11	5	79
回答率	69%	40%	35%	50%	53%

表2-3

創作					
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	計
人数	9	4	4	3	20
回答率	13%	10%	13%	30%	13%

表2-4

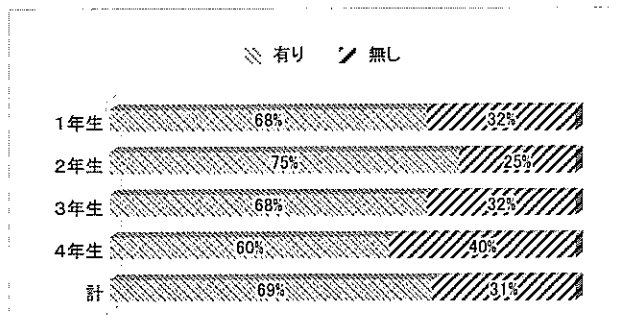
鑑賞					
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	計
人数	54	24	21	7	106
回答率	79%	60%	68%	70%	71%

表2-5

音楽理論					
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	計
人数	25	12	11	7	55
回答率	37%	30%	35%	70%	37%

中学校においても、歌唱表現を中心に授業を受けたと答えた学生が125名(84%)と1位であった。しかしながら2位は鑑賞106名(71%)、3位は器楽表現79名(53%)と順が入れ替わった。

グラフ1 高等学校で音楽を学んだ学生



小学校・中学校では必修教科として「音楽科」が設けられているが、高等学校では各学校によって異なる。一般的には芸術科目の1つとなり、選択科目となる。対象学生の約70%が高等学校で「音楽科」の授業を受けていたことが分かった。

高等学校

表 3-1

歌唱表現					
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	計
人数	36	21	21	4	82
回答率	78%	70%	100%	67%	80%

表 3-2

器楽表現					
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	計
人数	24	16	10	3	53
回答率	52%	53%	48%	50%	51%

表 3-3

創作					
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	計
人数	6	4	3	2	15
回答率	13%	13%	14%	33%	15%

表 3-4

鑑賞					
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	計
人数	30	17	17	4	68
回答率	65%	57%	81%	67%	66%

表 3-5

音楽理論					
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	計
人数	12	10	7	3	32
回答率	26%	33%	33%	50%	31%

表 3-6

音楽史					
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	計
人数	15	12	2	4	33
回答率	33%	40%	10%	67%	32%

歌唱表現を中心に授業を受けたと答えた学生が 82 名（80%）、次いで鑑賞 68 名（66%）、3 位は器楽表現で 53 名（51%）の順で中学校の授業内容と同様であった。

保育者としての専門的な学びを始める前段階で学生が受けている音楽教育は歌唱表現が授業内容の中心であった。器楽表現は小学校では 2 位であったが、中学校・高等学校とその占める割合は下降傾向であった。一方鑑賞が授業内容で占める割合が大きくなる傾向を示した。

Q2 今までにどんな歌い方をしたことがありますか。

小学校・中学校・高等学校いずれも「校歌」を歌う機会があるので全ての学生が斉唱（伴奏有）の経験があった。独唱や合唱のスタイルで歌うことが上昇傾向であったが、輪唱・交互唱は急激な下降傾向で歌われなくなることが分かった。

小学校・中学校・高等学校ともに「伴奏有」の歌い方の経験が多かった。しかし、大学の授業で課している「弾き歌い」とは違い歌い手が伴奏す

歌い方の種類

表 4-1

	小学校								合計	
	伴奏有				伴奏を伴わない				伴奏有	伴奏を伴わない
	1年生	2年生	3年生	4年生	1年生	2年生	3年生	4年生		
斉唱	68 100%	40 100%	31 100%	10 100%	12 18%	11 28%	3 10%	4 40%	149 100%	30 20%
独唱	19 28%	14 35%	7 23%	5 50%	7 10%	7 18%	5 16%	3 30%	45 30%	22 15%
輪唱	36 53%	19 48%	16 52%	6 60%	14 21%	15 38%	10 32%	3 30%	77 52%	42 28%
交互唱	28 41%	19 48%	16 52%	4 40%	6 9%	5 13%	3 10%	0 0%	67 45%	14 9%
合唱	48 71%	32 80%	22 71%	8 80%	9 13%	6 15%	3 10%	0 0%	110 74%	18 12%

表 4-2

	中学校								合計	
	伴奏有				伴奏を伴わない				伴奏有	伴奏を伴わない
	1年生	2年生	3年生	4年生	1年生	2年生	3年生	4年生		
斉唱	68 100%	40 100%	31 100%	10 100%	12 18%	9 23%	5 16%	1 10%	149 100%	27 18%
独唱	21 31%	13 33%	6 19%	3 30%	10 15%	7 18%	5 16%	1 10%	43 29%	23 15%
輪唱	19 28%	11 28%	10 32%	2 20%	3 4%	7 18%	4 13%	3 30%	42 28%	17 11%
交互唱	17 25%	12 30%	6 19%	2 20%	5 7%	4 10%	1 3%	2 20%	37 25%	12 8%
合唱	57 84%	35 88%	26 84%	10 100%	11 16%	7 18%	7 23%	1 10%	128 86%	26 17%

上段・・・人数
下段・・・回答率

表 4-3

	高等学校								合計	
	伴奏有				伴奏を伴わない				伴奏有	伴奏を伴わない
	1年生	2年生	3年生	4年生	1年生	2年生	3年生	4年生		
斉唱	46 100%	30 100%	21 100%	6 100%	9 20%	5 17%	3 14%	3 50%	103 100%	20 19%
独唱	16 35%	11 37%	12 57%	3 50%	11 24%	6 20%	7 33%	4 67%	42 41%	28 27%
輪唱	8 17%	2 7%	4 19%	1 17%	2 4%	1 3%	0 0%	1 17%	15 15%	4 4%
交互唱	9 20%	3 10%	3 14%	1 17%	2 4%	1 3%	0 0%	1 17%	16 16%	4 4%
合唱	41 89%	20 67%	15 71%	6 100%	8 17%	3 10%	1 5%	2 33%	82 80%	14 14%

上段・・・人数
下段・・・回答率

るのではなく、担当の教師の伴奏に合わせて歌うのである。また、保育の中で手遊びや遊び歌を歌う機会が多いが、「伴奏を伴わない」で歌う機会があまりなかったことが分析の結果伺えた。

Q3 歌うことについての好みとその理由も書いて下さい。(複数回答をしてもよい)

歌うことに関して、4学年ともに学生の約80%が「歌うことが好き」という回答であった。好きな理由は1年生・2年生は「歌うことは楽しい」、3年生は「歌うことは気持ちが良い(ストレス解消)」、4年生では「音楽が好きである」と学年によって違いがみられた。

「嫌い」と回答した学生が3年生・4年生にいなかったことは1年次・2年次の音楽表現関係の

グラフ 2 歌うことについての好み

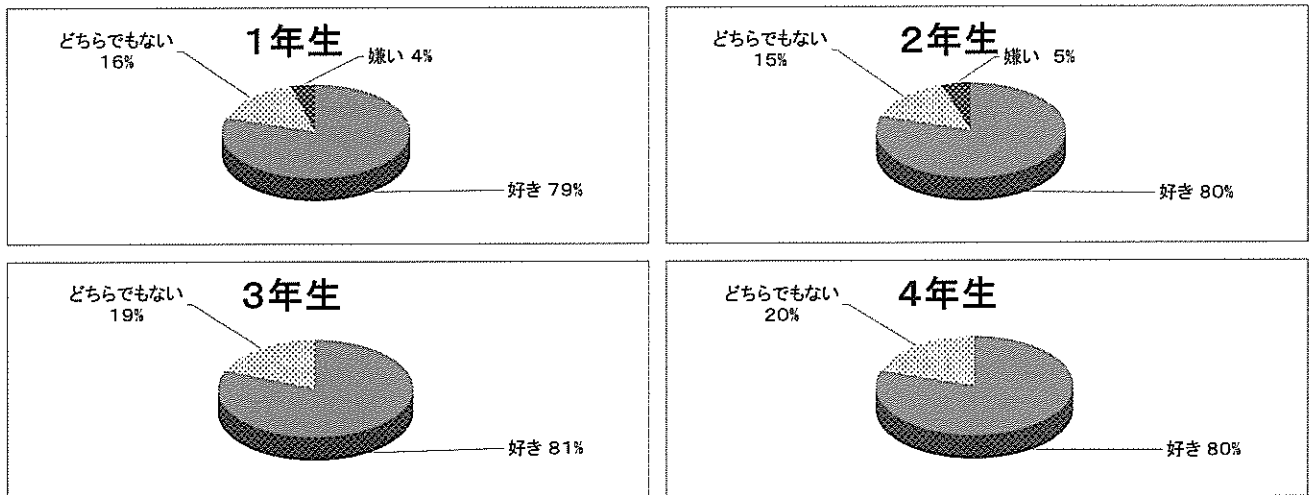


表 5 歌うことについての好み (複数回答有り)

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
1 好き.....119 (80%)	54 (79%)	32 (80%)	25 (81%)	8 (80%)	計
1 歌うことは楽しい	28 (52%)	19 (59%)	8 (32%)	3 (38%)	58 (49%)
2 歌うことは気持ちが良い(ストレス解消)	23 (43%)	12 (38%)	12 (48%)	1 (13%)	48 (40%)
3 音楽が好きである	4 (7%)	4 (13%)	2 (8%)	5 (63%)	15 (13%)
4 合唱など皆で声を合わせて歌うことが好きである	1 (2%)	0 (0%)	3 (12%)	0 (0%)	4 (3%)
5 自分の気持ちを表現できる	2 (4%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (3%)
2 どちらでもない.....25 (17%)	11 (16%)	6 (15%)	6 (19%)	2 (20%)	計
1 歌うことは嫌いではないが、声量がない 声が低い 音が取れない	6 (55%)	3 (50%)	6 (100%)	1 (50%)	16 (64%)
2 皆で歌うのはいいが、独唱は緊張する	2 (18%)	2 (33%)	0 (0%)	1 (50%)	5 (20%)
3 歌によって好き・嫌いがある	2 (18%)	1 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (12%)
4 人前で歌うことが苦手である	1 (9%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (4%)
3 嫌い..... 5 (3%)	3 (4%)	2 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	計
1 歌うことが苦手である	2 (67%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (80%)
2 声の出し方がわからない	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (20%)

授業でヴォイストレーニングやソルフェージュ能力を養うように指導しているの、その効果のあらわれだと思われる。

Q4 伴奏を伴わないで歌うことと弾き歌いではどちらが歌いやすいでしょうか。その理由も書いて下さい。

総合的には「弾き歌い」の方が歌いやすいという回答であった。学年別では3年生のみが「伴奏を伴わないで歌うことの方が歌いやすい」と回答した学生がやや多かった。

「弾き歌いが歌いやすい」理由として、「音や音程が取りやすい」ことを挙げている。このことは、歌い手が伴奏楽器を頼りに歌っていることを意味している。

「伴奏を伴わないで歌うことの方が歌いやすい」理由として、「歌うことに集中できる」ことを挙

げている。弾き歌いのスタイルは伴奏を弾くことにウエートが取られることを意味している。ここで考えたいのは歌のメロディに付けられたオリジナルの伴奏を演奏しなければならないかということである。極論では長音階の歌は全てハ長調で書かれている楽譜もあるが、読譜が簡易になるだけで子どもの声域を無視したものである。

保育士の実技試験「音楽」で行われる「弾き歌いの課題」は平成17年からコードで受験生各自が伴奏をつけて演奏することとなっている。そこで各自のレベルに合わせ、コードで自由に子どもの歌の伴奏をアレンジできるような能力を身に付けることができる指導方法の開発が必要であると思われる。

グラフ3 伴奏を伴わないで歌うことと弾き歌いではどちらが歌いやすいか

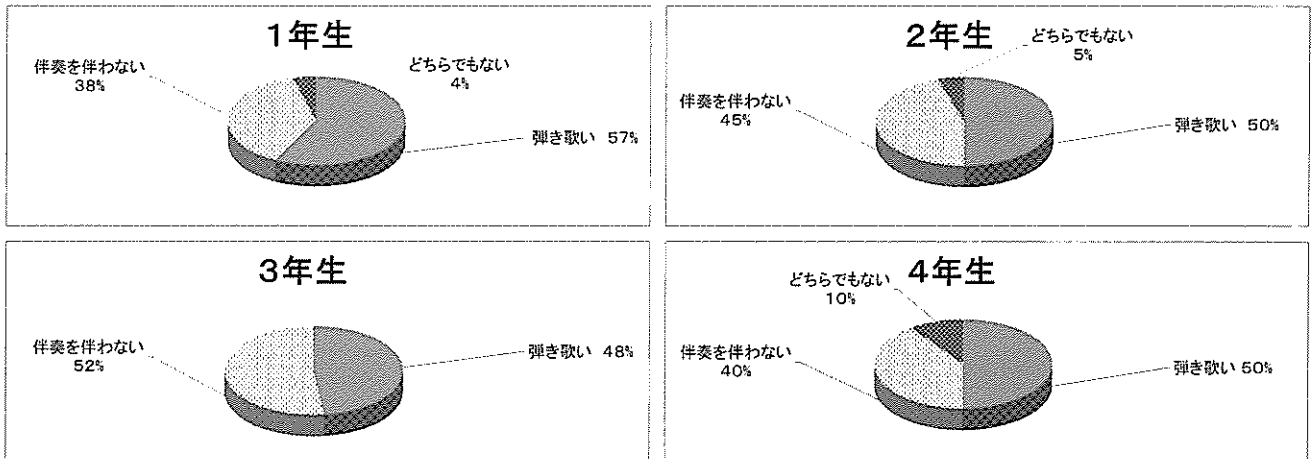


表6 弾き歌いと伴奏を伴わないで歌うこととはどちらが歌いやすいか(複数回答有り)

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
1弾き歌い.....79(53%)	39(57%)	20(50%)	15(48%)	5(50%)	計
1 音や音程が取りやすい	27(69%)	15(75%)	13(87%)	4(80%)	59(75%)
2 リズミカルに歌える	9(23%)	3(15%)	2(13%)	0(0%)	14(18%)
3 緊張感が和らぐ	2(5%)	2(10%)	0(0%)	0(0%)	4(5%)
歌の雰囲気が出しやすい	3(8%)	0(0%)	0(0%)	1(20%)	4(5%)
2伴奏を伴わないで歌う.....64(43%)	26(38%)	18(45%)	16(52%)	4(40%)	計
1 歌うことに集中できる	22(85%)	8(44%)	10(63%)	4(100%)	44(69%)
弾き歌いに慣れていない ピアノが苦手である	3(12%)	6(33%)	2(13%)	0(0%)	11(17%)
3 伴奏楽器を演奏しなくてもよい 気が楽である	1(4%)	3(17%)	3(19%)	0(0%)	7(11%)
4 キーをチェンジすることができる	1(4%)	2(11%)	1(6%)	1(25%)	5(8%)
5 伴奏と声のバランスを考えなくてもよい	1(4%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(2%)
3どちらでもない.....6(4%)	3(4%)	2(5%)	0(0%)	1(10%)	計
1 伴奏を伴わないで歌うことは音や音程が取りにくく、弾き歌いは歌に集中できない	2(67%)	1(50%)	0(0%)	1(100%)	4(67%)
2 歌によって左右される	1(33%)	1(50%)	0(0%)	0(0%)	2(33%)

Q5 一番好きな子どもの歌の曲名とその理由を書いて下さい。

51曲の子ども歌が挙げられた。学生の選んだ一番好きな子どもの歌は「さんぽ」*であった。1995年の調査⁴⁾においても、当時の学生の一番

好きな子どもの歌が「さんぽ」であったことは考え深い。選曲理由は「A歌で得られるムード」、「B歌の歌詞や音楽的特徴」、「C歌にまつわる思い出」の3つのカテゴリーに分類できる。その中で「B歌の歌詞や音楽的特徴」が好きになる理由となることが分かった。

表7-1 一番好きな子どもの歌と理由 総数51曲

	曲名	1年生	2年生	3年生	4年生	計	理由
1	さんぽ	20	5	3	0	28	1・2・3・5・6・9・10・13・14・16
2	あめふりくまのこ	6	6	0	2	14	2・4・7・10・12・14・23
3	かえるの合唱	3	3	4	0	10	3・5・16
4	世界中の子どもたちが	2	5	2	0	9	4・5・6・8・17
5	思い出のアルバム	6	1	0	1	8	3・7・11
6	大きなくりの木の下で	1	0	1	2	4	2・4・6
	手のひらを太陽に	2	1	1	0	4	1・2・3・17
	山のワルツ	1	3	0	0	4	2・4
9	あわてんぼうのサンタクロース	1	2	0	0	3	5・6
	犬のおまわりさん	2	0	0	1	3	4・6
	Believe	0	1	2	0	3	3・8
12	うみ	1	1	0	0	2	4
	おもちゃのチャチャチャ	1	1	0	0	2	1・6
	かたつむり	0	1	1	0	2	6・9
	幸せなら手をたたこう	0	2	0	0	2	3・13
	線路はつづくよどこまでも	2	0	0	0	2	2
	チューリップ	0	1	1	0	2	2
	翼をください	1	1	0	0	2	3
	ドロップスのうた	0	0	2	0	2	6・7
	バスごっこ	1	0	1	0	2	6・13
	ふるさと	1	0	1	0	2	4・21
	水あそび	1	0	0	1	2	3・5・6
	もみじ	2	0	0	0	2	7・15
	森のくまさん	2	0	0	0	2	2・18
25	アイスクリームのうた	1	0	0	0	1	7
	赤鼻のトナカイ	0	1	0	0	1	6・9
	ありさんのおはなし	0	0	0	1	1	4・12
	1ねんせいになったら	0	1	0	0	1	11
	おつかいありさん	0	0	1	0	1	6
	お誕生月なかま	1	0	0	0	1	6
	おはようクレヨン	0	0	0	1	1	6
	カントリーロード	1	0	0	0	1	9
	こいのぼり	0	1	0	0	1	2
	こぶたぬきつねこ	1	0	0	0	1	3
	しゃぼんだま	1	0	0	0	1	2
	そうだったらいいのにな	0	0	1	0	1	4・5
	たきび	0	0	0	1	1	3
	地球はみんなのものなんだ	0	0	1	0	1	4・6
	電線音頭	0	1	0	0	1	6
	ドレミのうた	1	0	0	0	1	5・15
	どんぐりころころ	1	0	0	0	1	3
	ドンスカパンパン応援団	0	0	1	0	1	6
	どんな色がすき	0	0	1	0	1	2
	とんぼのめがね	0	0	1	0	1	22
	ぶらんこ	1	0	0	0	1	19
	ぶんぶんぶん	1	0	0	0	1	5
	ぼくはくま	0	1	0	0	1	9
	ほたるこい	0	0	1	0	1	9
	南の島のハメハメハ大王	1	0	0	0	1	6
	むすんでひらいて	1	0	0	0	1	5
	山の音楽家	1	0	0	0	1	5
	その他 どれも好き	0	1	1	0	2	

* 「さんぽ」中川季枝子 作詞、久石 譲 作曲
スタジオジブリ制作 1988年公開 長編アニメーション作品「となりのトトロ」のオープニングテーマ曲。子どもの時だけ会えて、人を幸せにする、森に住むトトロと子どもたちのお話である。

表 7-2 子どもの歌の好きな理由

	理 由	回答数	カテゴリー
1	元気が出る	28	A
2	幼い時から好きである	26	C
3	歌いやすい(音域と声域がマッチ 短く覚えやすい)	24	B
4	歌詞がよい(情景が浮かぶストーリーがある)	22	B
5	楽しい(手拍子やアクションが入る)	20	A
6	リズムカルである	9	B
7	メロディがよい	7	B
8	小学校の思い出の歌である	6	C
9	好きなキャラクターや動物の歌である	6	B
10	気持ちが安定する	5	A
11	幼稚園や保育所の思い出の歌である	5	C
12	伴奏がよい	3	B
13	自然と身体が動く歌である	3	B
14	初めて伴奏を弾いた歌である	3	C
15	ハーモニーが美しい	2	B
16	誰もが知っている歌である	2	B
17	手話つきの歌である	2	B
18	母親とよく歌った歌である	1	C
19	関わった子どもたちが好きな歌である	1	C
20	毎年地域の行事で必ず歌う歌である	1	C
21	なんとなく	1	A
22	弾き歌いをして初めて嬉しいと感じた歌である	1	A
23	初めて歌唱指導をした忘れられない歌である	1	C

Q6 授業以外に、生活の中で歌う機会がありますか。(複数回答をしてもよい)

表 8 授業以外、生活の中で歌う機会はあるか

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
カラオケ店	61 90%	37 93%	29 94%	6 60%	133 89%
自宅	52 76%	25 63%	23 74%	9 90%	109 73%
車の中	21 31%	23 58%	24 77%	7 70%	75 50%
歩行中	35 51%	19 48%	11 35%	1 10%	66 44%
自転車に 乗りながら	24 35%	11 28%	10 32%	2 20%	47 32%
クラブ活動	18 26%	3 8%	5 16%	1 10%	27 18%
コンサート 会場	8 12%	7 18%	6 19%	2 20%	23 15%

上段…人数
下段…回答率

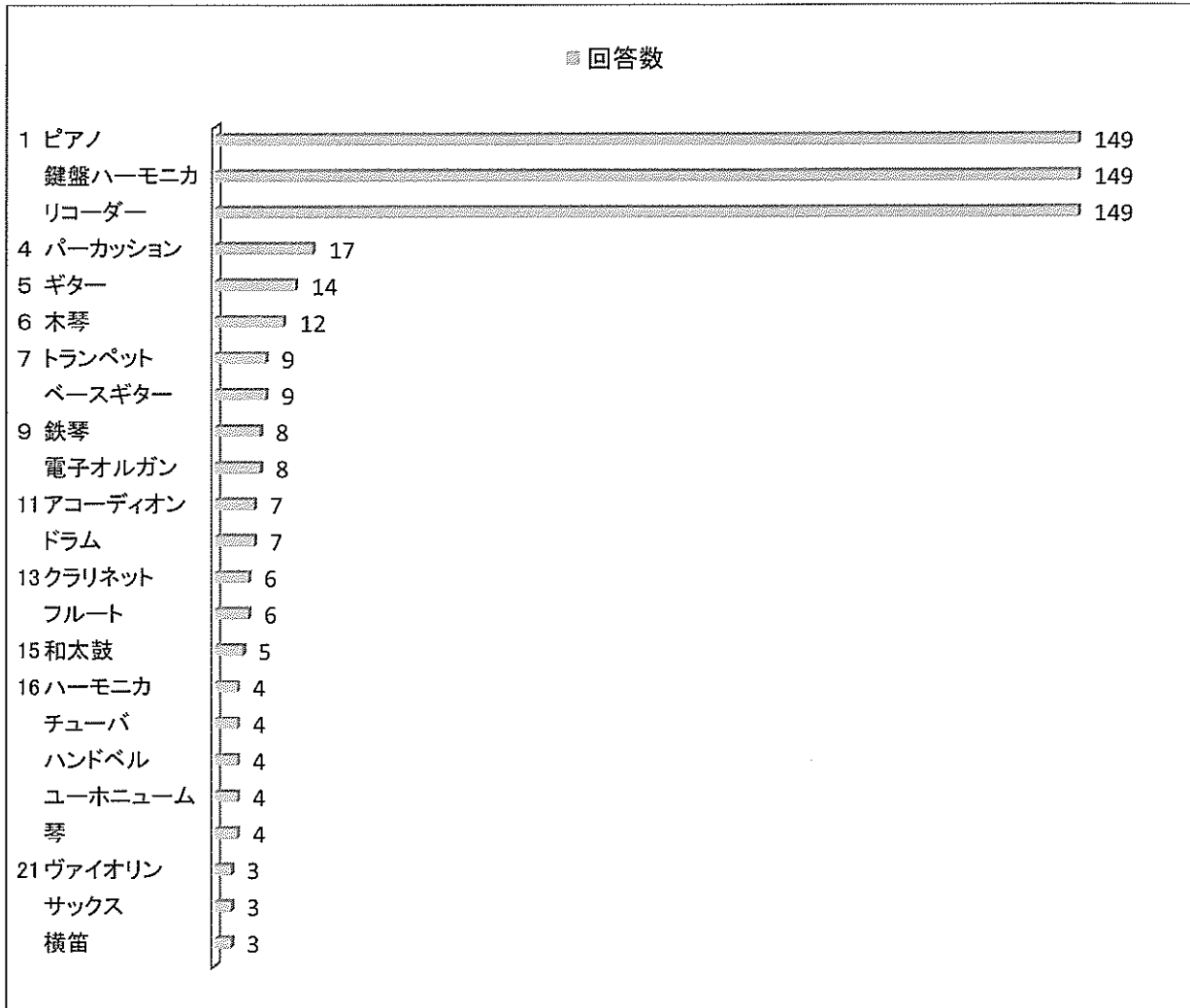
90%の学生がカラオケ店と回答したことは予想外に多かった。また、生活の中で様々な活動をしながらかを歌う機会を持っていることが分かった。

Q7 演奏できる楽器は何でしょうか。

小学校の音楽科で全員が指導を受ける「鍵盤ハーモニカ」「リコーダ」や本学の授業で課している「ピアノ」は全員が演奏できる楽器として回答した。

総数 32 の楽器のうち、ギターやアコーディオンなど戸外で用いることができる楽器も挙げられているので保育や教育の場で生かせるような指導をしたい。

グラフ4 演奏できる楽器

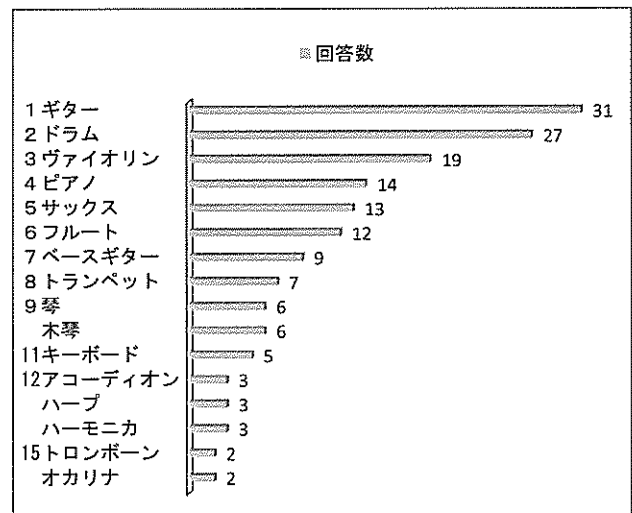


その他 オカリナ・オーボエ・小鼓・三味線・二胡・トロンボーン・トーンチャイム・ハーブ・ティンパニー

Q8 今後演奏したいと考えている楽器は何でしょうか。

総数 21 の楽器の中で、40 名 (27%) の学生が「ギターやベースギターを演奏したい」と回答した。既にギターやベースギターを演奏できる学生が 23 名 (15%) いるので合わせると 63 名 (42%) が関心を持っていることとなる。ギター演奏に欠かせないコード進行について、伴奏の編曲法として授業においても取り扱っているので学生たちの興味・関心を授業に生かしたいと考える。

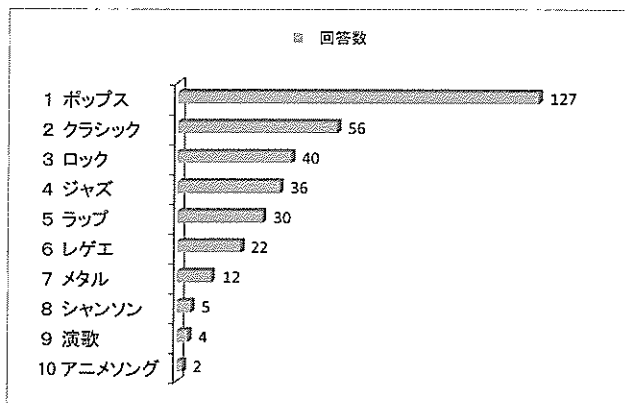
グラフ5 演奏したい楽器



その他 ウクレレ・ホルン・尺八・三味線・ブブセラ

Q9 好きな音楽のジャンルを書いて下さい。（複数回答をしてもよい）

グラフ 6 好きな歌のジャンルは何か



その他 童謡・唱歌・合唱曲・ボサノバ・パンク・ヒップホップ・R&B・ソウル・ヴォカロ・ハウス

好きな音楽のジャンルはポップスが127名（85%）と圧倒的に多かった。20種類の様々なジャンルの中で2位がクラシック56名（38%）という結果も興味深い。

保育者としての専門的な学びを始める前段階で学生が受けている音楽教育は歌唱表現が授業内容の中心であったことが調査によって判明したが、このことは保育とどのような関係があるのだろうか。「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」の領域「表現」の「内容」で示されている「歌うことに関する事項」は次の通りである。

幼稚園教育要領 領域「表現」内容

(6)音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。

保育所保育指針 領域「表現」内容

②保育士等と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。

⑧音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。

歌唱表現は「楽しく感じる」活動であることが求められている。しかしながら、幼稚園や保育園で歌われている手遊びや遊び歌で必要な伴奏を伴わないで歌うことを苦手と感じていることが分かった。

IV. おわりに

梅本堯夫は「歌うということは子どもの音楽的行動の中心である。『言葉の遊び』としての『歌』と『歩行の遊び』としての『踊り』、すなわち歌い踊るということが、人間の本性と最も密接に結び着いた遊び活動である。」⁵⁾と述べている。歌唱表現は最も本能的な表現行動であるといえる。子どもの歌う活動の起源についてパプーゼク(Papousek H.)は、「養育者とのコミュニケーションで乳児が見せる音声の遊戯性が歌うことの生物学的起源である」と述べている。⁶⁾このことから歌唱表現は乳幼児期から始まり、保護者や保育者とのコミュニケーションが重要であることが伺える。

本学人間総合学部幼児児童教育学科では、小学校教諭一種免許と幼稚園教諭一種免許の教員養成課程と保育士資格が取得できる保育者養成課程を設置している。音楽表現関係の授業は「音楽の基礎（1年前期）」、「演奏の基礎（1年後期）」、「音楽科（1年後期）」、「子どもと表現Ⅰ 音楽表現（1年通年）」、「音楽科演習（2年前期）」、「音楽科教育法（3年前期）」を開講している。いずれも選択科目である。各科目と歌唱表現との関連は次の通りである。

「音楽の基礎」

読譜、表現のための知識、発声法、歌唱法

「演奏の基礎」

伴奏法

「音楽科」

様々な子どもの歌の歌唱法、指導法

「子どもと表現Ⅰ 音楽表現」

手遊び、遊び歌の歌唱法

「音楽科演習」

伴奏法

「音楽科教育法」

様々な子どもの歌の歌唱法、指導法

今回の調査・分析によって、保育者を目指す学生の専門的な学びを始める前段階で受けている音楽教育や音楽観を把握することができた。育てたい能力を音楽表現関係の授業の中でいかに系統的に教授するかが今後の課題である。

<引用・参考文献>

- 1) 『幼稚園教育要領』 文部科学省 2008年3月改訂
2009年4月施行
- 2) 『保育所保育指針』 厚生労働省 2008年3月改訂
2009年4月施行
- 3) 『小学校学習指導要領 音楽』 文部科学省 2008年
3月改訂
- 4) 多保田治江 1995 「保育者養成における子どものうた
の取り扱いについて(3)」『北陸学院短期大学紀要』
第27号 pp23～40
- 5) 梅本堯夫 1999 『子どもと音楽』 東京大学出版会
p44
- 6) 前掲書 p44～45